

第9回津山市地域公共交通会議 会議録(要旨)

平成23年9月22日10:30~12:10

津山市役所4階 401会議室

1 開会(事務局)

2 経過報告

(事務局) 委員の皆様の任期についてですが、本年5月31日で一旦満了となっている。前回5月20日会議の開催に際し、本年度の人事異動の確認あるいは所属団体の推薦等いただいているので、更新ということで今回引き続き委員をお願いさせていただきたいと思う。前回5月20日の会議の際に更新についてお謀りする方が適当であったかもしれませんが、よろしくお願いたします。なお、委嘱状につきましては資料の一番下に配布させていただいております。

さて本日の会議の開催にあたり、公共交通会議設置要綱第4条第1項に基づき、会長・副会長の互選をお願いしたい。これまで、会長については当市の大下副市長、副会長については美作大学の杉山先生をお願いしてきたが、新会長・副会長についてはどのようにさせていただいたらよいか。

(委員) 事務局案はないか。

(事務局) 事務局としては、引き続きお願いしたいと考えている。⇒承認

3 会長挨拶(会長)

4 協議事項

(1)市営阿波バスの路線変更について

(事務局) 本路線につきましては、本会でご承認いただきましたように従来のボンネットバスからスクールバス車両に変更して運行しているが、ボンネットバス車両と比較してスクールバス車両が大型であるため旧加茂町中心部の一部での運行に若干支障をきたしているため一部運行経路の変更をお願いするものである。

路線図に現行の路線全体を示しているが、加茂地域へ入っていく経路のうち、道路幅員が狭くすれ違い等の運行に支障をきたしている路線、について、現在阿波方面へ帰るときに通っている経路に変更するものである。変更に伴う運行ダイヤ案を示している。なお、料金については従来どおりで変更はない。

(会長) この件についての意見等はないか。⇒承認

(2)ごんご小循環線の新設について

・関連する従来路線の一部変更について

(事務局) 小循環線については、「津山市地域公共交通総合連携計画」策定のおりにご説明させていただいたように、中心部の高齢者等交通弱者の日常の買物・通院の利便性を確保し、あわせて現在取組を進めている中心市街地活性化の一助とするもので、計画の4点の重点施策のひとつであり、市広報・HPで公表し、また、市議会へも報告している。

ご存知のように、中心部西部については現在バス路線がなく、中心部東部についてもイズミが再出店するまではスーパーが閉店した関係で歩いていける範囲に日用品を賅える買物施設がない状況であった。加えて町内によっては高齢化率が50%を超えるところもあるなど、居住者に高齢者が多い地域でもある。この状況から、個人の方からもまた町内会支部からもバス運行の要望が寄せられているところである。

以上の状況を踏まえ、今回の計画では唯一の新設路線となるが、市内では初めての低床バスを導入しての運行を実施し、交通弱者の利便性の確保を目指すものである。主として買物施設・病院等を巡る路線であるが、結果として市内中心部の主たる観光施設も巡ることとなり、この面での活用も可能となるものと考えている。

具体的な運行ルートについてであるが、津山広域バスセンターを出てアルネから北へ向かいソシオ一番街・信金中央支店・郵便局裏・記念病院、ここから東へ向かって中銀津山支店・信金本店、今度は西に向かって元魚町商店街・小野病院・法務局・税務署、今度は南に向かって中島病院・徳守神社・水田病院から鉄砲町・西寺町・坪井町を経て奴通を南下し、アルネ前からイズミ・郷土博物館を経て鶴山通を北上し、城南通を経てラムー・コープ・マルイ志戸部店を経て総社川崎線を南下して城東の旧道に入り、京町を経て広域バスセンターに帰るルートである。

当初計画では、この反対回りも予定していたが、一方通行等の制約も多く、双方向運行については本路線の利用状況を見ての今後の検討課題と考えている。利用料金については、200円を予定しており、東循環線・支所間ごんご間の乗継で実施している乗継割引を導入する。東循環線への乗継は広域バスセンター・アルネ前・大橋・東新町・志戸部下で可能である。東循環線との連絡を考慮して1時間15分サイクルとしている。

この運行開始に合わせて、これまで指摘のあった東循環線と支所間ごんごの乗継時間の改善を実施し、最大40分程度あったものをおよそ20分前後に改善する。また、元魚町商店街バス停の位置がこれまでより若干東よりに変わる。関連するものとして、勝北ごんごが奥津川まで延伸しているが、下津川を経由するよう一部路線の見直しと運行日の変更も合わせて実施したい。

ご審議のほどよろしくお願ひしたい。

(会長) これら2つについて、意見はないか。

(委員) 業界としては、タクシーができて百年で市民にもその業績を理解して

もらいたい。業界全体として、これを機に新しいスタートを切りたいと考えている。交通弱者に対してきめ細かいサービスができるように努力していきたいと考えている。事前にいただいた資料に基づいてタクシー関係でこの路線について話したときに次のような意見が出た。

- ・ 料金が適切ではない。
- ・ ジャンボタクシーへの相談がなかった。
- ・ バス事業者のためにやっているのではないか。
- ・ タクシーの経営を圧迫する。同じことをタクシーへの補助対応とした場合と比べたのか。
- ・ この地区に交通弱者がどれくらいいるのか。
- ・ バス、タクシーそれぞれの生き残りの方法があるのではないか。
- ・ 人通りの多いところでの安全性はどうか。
- ・ 公共交通会議で決める前に業者に相談してほしい。
- ・ タクシー会社にも補助してくれるのか。
- ・ バスよりも乗務員の給与が低い。
- ・ 街中をバスが通るのはどうか。大量輸送が基本ではないか。
- ・ 役所がいい顔をしたいために走らせるのか。
- ・ 補助なしでやれるのか。
- ・ 他の地区の人は利用できないではないか。
- ・ バス事業者への救済事業でやるのか。

これらタクシー業界のことも踏まえて議論してほしい。

(会長) タクシー業界はきびしい状況で多大な影響を与えるという意見だったと思う。

(委員) バス業界の昨今のきびしさはタクシーと同じである。公共交通と位置づけられているが、むしろ福祉バスではないかとも思っている。タクシーとはお互い共存して助け合うものではないかと思っている。その中で地域住民の人に足の提供が必要である。市街地の中をこまめに運行してほしいという希望はかねてからあった。連携計画の中にも盛り込まれている。利用者がそれぞれのいいところを選択し利用してもらえればと思う。街中をこまめに走ることは、バス業界の責務でないかと思う。

(委員) 両方とも意見はあると思うが、利用者としては需要と供給のことなのでそれぞれ企業努力が必要だと思う。取り残されている交通弱者の意見が上がってここに提案されたと思う。バスは、時間的に拘束されているのでいつでも来てくれるタクシーとは住み分けができるのではないか。街中に住む人は減ってきている。しかし、地価は高く税金も高い。人が住まなくなると自治会も成り立たない。我々としては、きめ細かくバスが走ってくれることはありがたいことである。バスだけではなくタクシーへの援助も考えてもらえないかと思う。

(会長) 市街地は高齢化が進んでおり、この観点からも進めている。タクシー

への援助について、事務局からどうか。

(事務局) これについては、市の公共交通総合連携計画に基づいて実施している。タクシーへの影響が全くないとはいえないが、かつての循環ごんごバス導入時にも同じような議論があったのではないかと思う。バス、タクシーそれぞれの優れた点があるので、住み分けができるのではないかと思っている。

高齢化率が高く深刻な地区もある。市中心の西部はバス路線が全くない状況で、連合町内会の支部からも要望がでている。この路線の趣旨は、買い物の利便性、中心市街地の利便性、観光などが考えられる。安全性の確保については、事業者で慎重に進めてもらっていると思っている。補助金については、効率化を図り全体の補助金総額は増えない形で進めている。遠い所はバス、近いところはタクシーという話があったが、全国的には人が多いところはバス、人が少ない所ではデマンドタクシー等という流れになっている。

鉄道も含めてそれぞれ共存を図るということで進めていきたい。タクシー業界へは周辺部のデマンドタクシーの提案をさせていただいている。

(会長) タクシー業界がきびしいということは理解している。バスについては、時間が拘束されるが安い、タクシーについては、タイムリーに使えるが料金がかかる。それぞれ共存していただけないか。

中心部の高齢化が進む中で町内会からの強い希望があるのでご理解いただきたい。

(委員) 中央病院にごんごバスが入ったことでタクシー利用が減っている。高齢者は、1日仕事としてバスを待つので影響はあると思う。タクシーチケットというようなことも考えてほしい。

(事務局) 合併前の久米地区でタクシー券配布ということがあったが、いろいろとある中で福祉バスに統一したということがあり、現在ではタクシー券配布は難しいのではないかと思う。

(委員) 本当に必要とする人のところに行っていない。連合町内会や民生委員等に調査して病院に通いたい人が難しい人に的確に対応できるようにしていけばよいのではないか。

(事務局) 福祉バスについては、ジャンボタクシーでタクシー事業者に依頼している。路線がうまくいっていないということもあるので来年度久米については、デマンドタクシーを考えている。

(委員) 無駄のないように使えばうまくいくのではないか。

(委員) 計画にある路線のみに補助があるということか。

(会長) 佐良山地区でデマンドタクシーに取り組もうとしている。他地区でもそういった話があがっている。一宮地区にごんごバスを走らせてほしいというような話もある。交通政策としては、デマンドタクシーを試行しようとしているが、これを全市的に広げていけばタクシーの活用が進む

ということで理解していただきたい。

(委員) この路線は、今回の総合連携計画の中心となるものだと思う。まずは実施して、利用者の意見を聞くことが大切である。鉄道、バス、タクシー、自転車という形で上位の交通手段ができないことを下が補っていく。中鉄北部バスがタクシー事業をやっていないので、バスに乗った人でタクシーに乗り継ぐ人にはタクシーの割引券を出すというようなことも考えていければいいのではないか。タクシーの電話番号がわからないというようなこともあるので、バスの中吊りにタクシーの電話番号を大きく表示する協力を得るなどして共存できることを考えていければよいのではないか。

(委員) 今回は、事前に資料の配布があり、活発な意見が出てよかったと思う。利用者の立場から言うと、使いやすいようにニーズに合ったものができればと思う。なぜ路線がくるくる回っているのかと思ったが、通院のことを考えると便利がいいのではないかと思った。

乗合タクシーについては、金額的なところが大きな問題となる。町内会に入ってから乗合タクシーのPRとかに取り組んで、そこを活路にしていけばよいのではないか。

(委員) 津山地区のタクシー台数は、172台で適正な台数は140台とされている。乗務員も300名いる。すべてがデマンドという訳にはいかないのでよく考えていかなければならない。タクシー労組もこの会議に入れていただきたい。

(会長) デマンドでは、普通のタクシー車両も使うのか。

(事務局) 今回のデマンドの提案は、余剰車両を使うということになっている。乗車する人が多い場合は、2台使うこともある。

(会長) タクシー労組の参加の件は、意見として受け賜るということによいか。

(事務局) 意見として受け賜る。

(委員) タクシー、バス業界ともにきびしい状況である。法的に言えばデマンドについては、なんでも行けるというのではなく、あくまでも乗り合わせということで小さいバスのイメージである。乗り合う人数が限られていればタクシーの方が安いということもあり、デマンドで走らせる方がよいのかどうかということは地域で調べて進めていただきたい。

運賃について、きびしい制約を受けている。バスは原価計算に基づいており、タクシーについては認可という制約がある。ある程度は工夫できるようにになっていたが、昨今のきびしい情勢で運賃を安くしたから乗車が増えるのかといった課題もあり、運賃を変えられない状況である。行政からの補助も考えてほしい。現金での補助は難しいと思うのでチケットによる方法とかがあがるが、交通政策というよりは福祉政策ということになってくると思う。

基本的には、連携計画に沿って進めていただければと思う。

- (委員) 路線については、道幅が狭く非常に危ないということがある。危ないところについては、危ないという指摘をする。あとは運輸支局での判断になると思う。正式には、意見照会があつてからになる。
- (委員) 中央病院にバスがたくさん乗り入れているがこれについては警察からOKをだしたのか。
- (委員) バスが乗り入れる際に基準を満たしていればOKを出す。
- (委員) 事故がないのが不思議なくらいである。入口まで自家用車を持ってくる人もいる。
- (委員) バスは、時間と場所が制約されている。過疎地域はバスで、密集地はタクシーでということもある。津山駅から近いところまで乗った人がタクシー乗務員から小言を言われたという話を聞いた。経営者と現場の人の温度差もあると思うが、良いサービスを提供していかないとタクシーもバスも利用が伸びていかない。
- (委員) 岡山から鉄道に乗って、亀甲駅で降りることがあるが、タクシーもバスも乗り継ぐ人がいない。全体的に利用者が減ってきている。こうした中で交通弱者の人たちに少しでもサービスが届くようにしなければならない。
- (会長) 色々と貴重な意見をいただいた。それぞれの意見を生かしながら共有できるように検討する。安全面についても確認し、手続きをさせていただきたいと思う。いろいろな意見があると思うが、交通・福祉政策の両面からサービスを提供するというご理解いただきたい。
- (委員) この路線への補助はどうなるのか。
- (事務局) 赤字部分の補填となる。
- (委員) 飲食店も大変な状況であり、夜のまちの活性化も考えていかなければならない。バスを夜も動かすということにならないか。
- (委員) そういう需要があれば実施したい。
- (会長) 街に出ても人が動いていない状況である。
- (委員) このままでは、タクシーもなくなってしまうと危惧される状況である。
- (委員) 安全上だめなものは、運輸支局もいいとは言えないので警察と協議をきちんとやってほしい。
- (会長) 交通弱者の利便性の確保ということから承認しただけか。⇒承認

(3) 有本観光バス路線の変更について

- (事務局) 美咲町和田北から津山中央病院まで運行する有本観光バスの路線については、昨年9月まで美咲町の市町村有償運送として運行していたが、10月より有本観光バスの4条運行に変更し運行している。路線としては市内でごんご久米線・行方線・東循環線等と競合するが、津山市内の運行についてはクローズドドア方式ということで競合を回避した上で、美咲町の方の津山中央病院等への利便性を図るということで津山市公共交通会議と

して運行を承認してきたところである。クローズドドア方式については他に英田バス等がある。

今回の申請については、要望書の趣旨にありますように利用者のさらなる利便性向上を図るため津山市内のクローズドドア方式を解除して乗降を認めていただきたいという申請で、結果として事業者の競合が生じてくるものでございますので、その点を含めてご審議をお願いしたい。

(有本観光) 昨年9月までは、かめっちバスが走っていた路線である。40年来亀甲から錦織までは路線バスを続けていたが、昨年の6月に美咲町から亀甲から津山中央病院間を有本観光バスでやってもらえないかとの話があり、急遽対応し、昨年10月から運行することとなった。クローズドドアの問題はあったが、時間がなくそのまま始めた。

走ってみると1ヶ月5,000kmで一日に4.5往復、支出に比較して収入が少なく、これではどうにもならないという話もあった。美咲町から津山市に入るとウエストランドとアルネしか停留所はなく、なおかつクローズドドアとなっている。中央病院でごんごバスに乗り遅れた人がいても乗せられない状況である。40年やってきた延長で津山を走れるということで頑張っている。

(会 長) 下車のみ、乗車のみという制約を解消してほしいということか。

(有本観光) ごんごバスの客を取ってはいけませんが、亀甲からの客もごんごバスを利用している。

(会 長) 今までの経過と、わかりやすさの追求、中鉄北部バスとの競合ということがある。

(委 員) 美咲町と話をするのがよいのではないか。美咲町から補助はもらっているのか。

(事務局) 引継ぎの際の話がうまくいっていないかもしれない。

(会 長) 中鉄北部バスも走っているのに利便性だけで話もできないのではないか。

(委 員) まず経営と利便性の話を分けて考えてもらわないといけない。美咲町から話があったときに経営も考えていかなければならない。利便性を打ち出して経営に結びつけていくのはおかしいのではないか。クローズドドア方式の解消は、いたずらな競合が生まれる。ただ単に事業者のエゴでなく、利用者に混乱を与える。現在、美咲町の人々の利便性は達成できていると思う。クローズドドアの解消は認めれない。

具体的に津山市については連携計画をたてたりして地域住民への利便性を供与できていると考えている。各循環線等で経路・運賃等配慮したものと思っている。中央病院からアルネ間の利便性をはかることについては、東循環線を使ってもらいたい。津山市では支所間バスを走らせているが、市街地内まで入ってくると路線の重複が出てくるので郊外の接点で折り返すということで重複を減らすことを昨年からはやっている。市外から

6路線ぐらいが乗り入れているが、経路などは無秩序で運賃もバラバラであり、乗り間違えもある。まずは市内を整理しなければと思う。

(委員) 要望書の趣旨にあるが、今回提案について、運行事業者のみで持ってきているので町と関係はどうかということがある。

(会長) 行政からのアプローチはあるのか。

(事務局) 美咲町が運行しているまを有本観光バスが運行するという事で前回認めた。美咲町から経過は若干聞いているがどうしてほしいという話はなかった。

(会長) この案件については、継続とするかそれとも不承認とするか。

(委員) 利用者にとっては何バスでもよいが、無秩序にしてバスもタクシーもなくなってしまっはいけないので、ここで簡単には決められない。

(会長) 論点整理をして次回へということでよいか。次回会議はいつか。

(事務局) 具体的には示せないが、デマンドのために開かないといけないので年内ぐらいかと思う。

津山市は現在「地域公共交通総合連携計画」に基づき見直しを進めている。

競合等についての基本的な考え方は、結節点停留所等での乗継を導入し、重複等を廃して効率的な再編をし利用者にとってわかり易い体系とすることである。

3年の見直しで市内が整理できた後は、市町村境での乗継とすれば走行距離が減り、同等の経費で増便が可能となり、利用者またお互いのメリットもあることから近隣自治体へもこの方針での見直し協議をお願いしたいと考えている。

(会長) 利用者にとっては何でもよいということがあるが、市の基本方針もある。

(委員) ごんご久米線が中心部まで入らずに乗り換えするということが計画されているが、この状況を見てからという方がよいのではないか。

(委員) 利便性の促進ということでの要望であるが、経営については美咲町で話をしてもらえばと思う。

(委員) 説明を聞くと中鉄北部バスが邪魔をしているのではないかと聞こえるが、きちんと整理すれば解決する課題だと思う。

(会長) 論点を整理して継続審議としたい。その他で意見等はないか。

(委員) 一番最初の計画のときにタクシーの方にも相談をかけていただきたい。そうすればいい案が出るのではないかと思う。

(事務局) この計画については、この会議に出席されている皆さんを含め、そのほかにも委員を加えた中で決めていただいている。

5 その他

(会長) 全体の中で何かあるか。⇒なし

6 閉会(会 長)